

身体性認知で人からの印象を良くするには？

K.Y.<社②ゼミ>

1.はじめに

人の印象を良くするにはどうすればいいのだろうか。例えば、髪の毛の艶があるほどその人に対しての印象が良くなるという結果が示されている[1]。また、印象に関する別の実験では、瞬目が多い人は情緒安定性に欠ける印象を受けやすいことが示されている[2]。

人の認知に関する理論の一つに身体性認知というものがある。これは、「自分の行動や考えが無意識のうちに周りの環境に影響されている」という考え方である。例を挙げると、増大している音を聞くと不快感が大きくなる、柑橘系の香りを嗅ぐと洗浄や掃除に関する行動が増える、苦みを感じると対象への嫌悪感が増大する[3]、といったものがある。

本研究では上記の身体性認知を使って、他者からの印象を良くする方法を調査していく。今回は色と音に注目する。なぜなら、音と色はそれぞれ人の行動や心理状態に影響を与えるためである。その例として、アップテンポのBGMが流れているとき、会話量が増えることが挙げられる[4]。以上から、身体性認知を使って印象を良くする方法を、色と音の観点から調べ、考察していく。

2.仮説と調査方法・解析方法

身体性認知を利用して、人への印象も周囲の環境によって変化するのではないかと仮説を立てる。

2.1.調査方法

来ている服の色・周囲の音の影響の二つの観点から調査する。また、服の色については赤色と青色を、周囲の音については明るい音楽と暗い音楽を比較する。音楽の実験を実験A、色の実験を実験Bとする。

実験では計40枚の写真を使用する。内訳は、男性/女性のポジティブな写真、男性/女性のネガティブな写真を各10枚ずつとする。

実験は6件法のアンケートで行い、その選択肢は【とても良い・良い・少し良い・少し悪い・悪い・とても悪い】であった。

2.2.実験の解析方法

6つの選択肢を左から順に【6・5・4・3・2・1】点と配点する。その後、得点の平均値の大きさを、対象的な条件にあるポジティブ／ネガティブ印象の写真同士で、比較する。そして対応のあるt検定を行い、2つの平均値に有意差があるのか調査する。t検定でもとめられたp値と有意差は $\alpha = 0.05$ を基準とする。

3.実験A：音の実験

対象 竹園高校生20名を対象に、明るい音楽／暗い音楽でわけ、それぞれ10名ずつ実験を行う。

方法

- ①教室内に被験者を呼んで「明るい音楽」/「暗い音楽」でわけ、実験する
- ②音楽を流した状態で人物の写真40枚を6つの選択肢から最も人物の印象に当てはまるものを選び、評価してもらう。

3.1.結果

ポジティブ写真の得点平均値を比較したとき、明るい音楽の時は4.975点、暗い音楽の時は4.59点となり明るい音楽の方が暗い音楽よりも得点平均値が高くなった。また、対応のあるt検定を行った結果、p値は $p < 0.05$ となり、有意差ありとなった。

ネガティブ写真の得点平均値を比較したとき、明るい音楽の時は2.335点、暗い音楽の時は2.32点で得点平均値はほぼ等しくなった。また、対応のあるt検定を行った結果、p値は $p > 0.05$ となり有意差はなしとなった。

表1 ポジティブ条件の結果

	有意差	得点平均値比較
明るい音楽	あり	明>暗
暗い音楽	なし	明=暗

表2 ネガティブ条件の結果

	有意差	得点平均値比較
明るい音楽	なし	明=暗
暗い音楽	なし	明=暗

3.2.考察

ポジティブな写真の得点の平均値は、明るい音楽が流れているときのほうが暗い音楽が流れているときより大きく、かつ2つの平均値には有意差があった。よって、明るい音楽は暗い音楽よりも印象をポジティブにする効果がある、と考えられる。

ネガティブな写真の得点の平均値は、明るい音楽が流れている時と暗い音楽が流れている時でほぼ等しく、かつ2つの平均値には有意差がなかった。よって、明るい音楽/暗い音楽ともにネガティブな印象にはほとんど変化を与えない、と考えられる。

4. 実験B：色の実験

対象 竹園高校生20名を対象に赤色の写真/青色の写真でわけ、それぞれ10人ずつ実験を行う。

方法

- ①音の実験で使用した40枚の写真を「赤色に着色した写真」と「青色に着色した写真」を用意する
- ②赤色の写真/青色の写真でわけてそれぞれ10人ずつアンケートを実施する。
- ③実験Aのように6つの選択肢から人物の印象に当てはまるものを選び、評価してもらう。

4.1.結果

ポジティブ写真の得点平均値を比較したとき、赤色の写真は4.83点、青色の写真は4.84点となり、赤色の写真と青色の写真とで得点平均値はほぼ等しくなった。対応のあるt検定を行った結果、 $p>0.05$ となり、有意差はなしとなった。

ネガティブ写真の得点平均値を比較したとき、赤色の写真は2.025点、青色の写真は1.995点となり、赤色の写真と青色の写真とで得点平均値はほぼ等しくなった。また対応のあるt検定を行った結果、 $p>0.05$ となり、有意差はなしとなった。

表3 ポジティブ条件の結果

ポジティブ	有意差	得点平均値比較
赤色の写真	なし	明=暗
青色の写真	なし	明=暗

表4 ネガティブ条件の結果

ネガティブ	有意差	得点平均値比較
赤色の写真	なし	明=暗
青色の写真	なし	明=暗

4.2.考察

ポジティブな写真の得点の平均値は、赤色の写真を評価した時と青色の写真を評価した時でほぼ等しく、かつ、2つの平均値には有意差がなかった。よって、服の色が赤いこと/青いことは、ともに人のポジティブな印象にはほとんど変化を与えない、と考えられる。

ネガティブな写真の得点の平均値は、赤色の写真を評価した時と青色の写真を評価した時でほぼ等しく、かつ、2つの平均値には有意差がなかった。よって、服の色が赤いこと/青いことは、ともに人のネガティブな印象にはほとんど変化を与えない、と考えられる。

5. まとめ・今後の課題

実験Aより音楽は人の印象に影響を与えることがわかる。特に明るい音楽は暗い音楽より大きな影響を与え、ポジティブな印象を強める。実験Bより赤色・青色の服どちらを着ても人の印象には影響しないことがわかる。

今後は、どのような音楽・曲調が一番好印象を与えるのか？やどのような色が最も良い印象を与えるのか？について調べていきたい。

参考文献

- [1]青池広樹, 渕上幾太郎, 上條洋士, 細川博史, 松下戦具, 森川和則 (2018) 「毛髪の色とおよび明るさと印象の関連性」 タカラベルモント株式会社, 大阪大学大学院
- [2]小孫康平 (2006) 「瞬目の多少が人の印象形成に及ぼす影響」 関西大
- [3]大江朋子 (2016) 「身体と外界の相互作用から醸成される社会的認知」
- [4]小林茂雄, 小口尚子 (2006) 「光色とBGMの種類がカフェでの会話行動に与える影響」